

令和 6 年度第 2 回半田市図書館協議会議事録

開催日時	令和 6 年 1 2 月 5 日 (木)	1 4 時～1 5 時 3 0 分
開催場所	半田市立図書館 第 1 会議室	
会議次第	1. 開会 2. 挨拶 3. 報告 ・図書館開館 40 周年記念事業「間瀬なおかた絵本原画展」について 4. 議題 ・「こんな図書館あったらいいな」～10 年後の半田市立図書館に向けて～	
出席委員 (欠席委員)	出席委員 会長 榊原肇、副会長 原田眞偉子 委員 市野喜啓、北中美郷、榊原俊一、佐藤幸恵、戸田弘美、間明 田みどり、船戸淑子、齊藤裕美子 ※敬称略	
教育部	教育長 榊原雅晃、教育部長 森田知幸	
事務局	図書館長 藤井寿芳、副主幹 田村元成、主査 竹内由香、岩本紀子、 主事 永田知丈、太田絢香	
	議事概要	
1. 開会		
2. 挨拶 (教育長)	(教育長) ・日頃より、図書館運営にご理解とご協力をいただき感謝している。 半田市立図書館がこの地に移転して現在までに、世の中はインター ネットやスマートフォンの急速な普及、子どもの読書離れ、コロナ 禍等から生活様式が変化した。図書館を取り巻く環境は、このよう な社会の変化や市民のニーズの多様化への対応を求められている。 図書館事業・サービスの更なる向上と充実を図り、今後も子どもか ら高齢者まで、幅広い世代に利用していただけるような魅力ある図 書館作りに努めていくため、本日の協議会では委員の皆様からの意 見をいただき、今後の図書館運営に反映していきたいと考えている。	
3. 報告 ・図書館開館 40 周年 記念事業「間瀬なお かた絵本原画展」に ついて	(事務局) ・図書館開館 40 周年記念事業「間瀬なおかた絵本原画展」について 事務局から報告。 (会長) ・本日出席の委員もこの原画展に来られたと思うが、如何だったか。 (委員) ・間瀬なおかたさんのおはなし会がとても面白く、また、子どもた ちが楽しんで見られるような展示になっていて大変よかったと思 う。	

	(委員) ・私も絵本を用意し、サインをいただいた。 (委員) ・私も原画展の案内をいただき、展示会場をゆっくり拝見させてもらった。多くの方に来ていただけていて、大変よかったと思う。 (教育長) ・開催期間中に展示されている原画を鑑賞した。ガラスケースの中の原画が若干遠くに展示されていて、もう少し近くで見ることができたら、来場者もより原画を楽しめたと思う。
3. 議題 ・「こんな図書館あったらいいな」～10年後の半田市立図書館に向けて～	(事務局) ・「こんな図書館あったらいいな」～10 年後の半田市立図書館に向けて～について事務局から説明。 (館長) ・本日の会議では、実現の可否などは考慮せず、どうすれば半田市立図書館が市民に愛される図書館になっていくか、という気持ちで意見交換ができればと思っている。また、半田市立図書館が行っている事業についての質問や他市町の図書館との比較でも構わないので、いろいろな視点からご意見をいただきたい。 (会長) ・図書館の事業で、司書が小学校に読み聞かせに赴く事業があるとのことだが、詳しくお聞かせいただきたい。 (委員) ・今年は2 回読み聞かせに来ていただいた。1 回目は、10 月の読書週間のときに司書に読み聞かせをしてもらった。このときは時間が足りなかったことと、子どもたちからの希望もあり、再度来ていただいた。このイベントを通じて子どもたちにとって、図書館がより身近なものになってくれればと思う。また、読み聞かせで使う本の選び方が大変よく、子どもたちがとても真剣に聞いているのを見た教職員から、本の選び方のコツについて研修をやってほしいとの要望があがっている。子どもたちや教職員たちの学習意欲にもつながり、大変感謝している。 (委員) ・先日出席した別の協議会で、子どもたちに直接、どのような図書館やどういったことに興味があるかを聞いてみたところ、読み聞かせや、小説や文学作品の漫画版等に興味があるとのことだった。図書館はメインカルチャーの中心にあると思うが、このようなサブカルチャーというものはニーズに多様性があり、これらを知ったり学んだり、あるいはフリースペースで興味のある人たちが会議等を開くことができる場所が図書館にあると面白いのではないかなと思う。また、最近の小学生はしっかりしていて、目標が実現できるような本が手早くわかるといいという話もあった。今般、AI がビッグデー

タを元に様々なことを瞬時に教えてくれるので、例えばそれを図書館資料に紐づけし、今の目標やしたいことを相談したときに、おすすめの本が即座に知ることができるようになるといいと思う。

(会長)

・先程の読み聞かせの話について、実際に読み聞かせをされている委員の話を伺いたい。

(委員)

・小中学校の朝の読書タイムに合わせ、曜日を決めて学校で読み聞かせを行っている。子どもたちへの読み聞かせは形を変えてでも続けていきたいという会員たちの思いもあり頑張っているが、会員が就労者や高齢者のため、時間調整等が難しく、定期的に行うことができなくなってきている。読み聞かせに行くと子どもたちは熱心に聞いてくれるので本当に嬉しく、司書たちも学校から依頼があったら、積極的に行ってあげてほしい。

(館長)

・子どもたちが熱心に読み聞かせを聞いてくれることが図書館職員のモチベーションになっていて、大変いいことと思っている。ただ、人員や時期の問題もあり、読み聞かせをやれる絶対数は自ずから決まってくると思うので、図書館職員、ボランティア、学校と連携して何かひとつの仕組みができると無理なく読み聞かせができるようになると思う。また、先日、図書館職員が知多管内の教職員に読み聞かせに関する研修を行ったが、専門職である司書が学校や保育園の教職員たちに伝え、教職員自身で読み聞かせができるようになっていくというのも、今後に向けた目標の一つになると思う。

(委員)

・読書通帳について、学校図書館の貸出の本と半田図書館の貸出の本とは連携したシステムになっているか。また、他の図書館では、本の値段が出ることが大人の読書通帳の利用促進に繋がっているようだが、半田市の読書通帳の利用状況等について教えてほしい。

(事務局)

・学校図書館と図書館のシステムとは連携していない。図書館で貸出券の登録後、インターネットサービスの登録をし読書記録の設定をすると、図書館で借りた本について記録がついていく仕組みになっている。本の金額については出たら面白いと思うが、現在のシステムでは出ないようになっているので、システム業者に相談してみようと思う。また、利用者の思想信条等を知られることができないようにするために、読書通帳について図書館側では把握することができないようになっているため、利用状況等の詳細は分かりかねる。

(委員)

・お話し会のために他市町の図書館に行くと、小物とか占いをするような店がたくさん出ていて、子どもたちは、そのついでに本を借りに行ったり、お話し会を聞きに行ったりするので、読み聞かせを行うエントランススペースにそういうお店があると、図書館に行くいいきっかけになると思う。それから、今、半田市内には 8 ヶ所のブックポストに本の返却ができるが、返却だけでなく、予約本の受取ができると、例えば、予約した本を仕事帰りに名鉄知多半田駅で借りて帰宅することができ、就労者にとって便利になると思う。

（委員）

・今後、社会はネット中心に変わっていくと思う。図書館に足を運べない人たちも図書館を利用できるように、YouTube 配信、X（旧 Twitter）をうまく活用できないか。これからは、イベント情報はネットで調べ、スマホから予約する、というようになってくると思うので、図書館事業にうまく活用できればと思う。

（委員）

・図書館が、小中学校にある学校図書館と一本化されると、本の貸し借りがしやすくなると思う。また、身近に本を貸し借りするところがあるのは大事だと思うので、移動図書館が毎週来てくれると買い物ついでに貸し借りができて便利と思う。また、今はネットで予約とかも全部できるので、予約した本をどこに届けてもらいたいとか、ここに返しておけばいいというような仕組みができるともっと図書館の利用者が増えると思う。

（副会長）

・本館でイベントを行うときには、各小中学校区内で、それに付随した小さな催し物を開き、詳しく知りたかったら本館に行ってくださいというようにしたら高齢者の方にも興味を持っていただけて本館に来てもらえるのではないかなと思う。また、読み聞かせには対象者の規定はないということなので、図書館と連携をとり、視覚障がい者に対しても読み聞かせができるようになるといいと思う。

（委員）

・図書館の本を予約すると公民館に届き、そこで受け取ることができるシステムができないか。公民館は朝 9 時から夜 9 時まで開放しているので、例えば、公民館事務室内に予約本を管理するコーナーを設け、週に一度のペースで公民館に届ける形にすると、就労者も、朝予約した本を、帰宅時に受け取ることができると思う。返却するときはブックポストに入れればいいので、そういう形のものができるといいかなと思う。予約した本の配達日の情報をうまく作成できれば実現できるのではないかなと思う。

（委員）

・他市町の図書館に行くと、イベントを行うときに来館者や子ども

たちの目を引くような写真やパネル等が配置されており、半田市でも、イベントの折に子どもたちが興味を持つような楽しいパネルとかを置くといいと思う。

(会長)

・そういうことを得意とする人あるいは活動をされているボランティアがいると思うので、うまく連携をとることができると思う。また、図書館に来てもらうだけでなく図書館自ら出向いていくこともあっていいのかなと思う。地域活性化のために開催される市内の各イベントで人が集まるときに、移動図書館のようなものがあると、それをきっかけに本に親しみを持ったりするようなことがあると思う。

(委員)

・外国の絵本のコーナーはあるが、全て日本語訳にしてある。これからの時代を踏まえて幼児向けの英語の絵本があるといいと思う。

(委員)

・図書館が自宅から大変遠く、保護者に図書館に連れて行ってもらうことが難しい子どもたちが図書館に親しむには、司書の読み聞かせは本当にいいことと思う。また、皆さんからも意見が出ていたが、オンラインで予約した本が手元に届き、返す手間もかからない仕組みができると、子どもたちが本に触れる選択肢がすごく広がるかなと思う。

(会長)

・今、建替予定の学校が何校かあるが、図書館には、建替の予定はあるか。

(教育部長)

・施設の建替となると、図書館だけではなく博物館や雁宿ホールも含めて考えないといけないこともあり、現在、検討中である。

(会長)

・つまり、これから先 10 年のことは、現在の図書館施設の中でどう展開していくか、というのが現実に近い話になるということを皆さんで共有しながら、いただいた意見をもとに 10 年後の図書館をどうしていくかという話にまとめ上げていただくといいと思う。他に意見はあるか。

(委員)

・自分たちの活動のことで恐縮だが、現在、読み聞かせを行っている場所はエントランスロビーだが、通りすがりの来館者に興味を持ってもらえる利点はあるが、声量によっては声が割れてしまったり隣のカフェの声が入ってきたりすることで、参加者に聞き取りづらくなったりするので、図書館内のどこかに読み聞かせコーナーを作っていたらいいとありがたい。

(館長)

	・今後のこの施設の取扱いの方向性がイメージできて初めて対応できる話になってくると思うので、現時点でいい答えができず申し訳ない。また、会議中、図書館への交通の便についての意見をいただいたが、図書館はどこに建てても 1 ヶ所で、通うのに不便ということは避けてとおれない。図書館に来れなくても本に親しんでもらうことができるということが一番よく、図書館としては、そういうことを踏まえて現在、動いているということをご理解いただければと思う。 (会長) ・事務局からも意見をいただきたいが、如何か。 (事務局) ・これまで、図書館側から、図書館の活動を知ってもらうための働きかけが不足していたと思う。小学校や校長会等に赴きお話をさせてもらったり、X (旧 Twitter) をさらに活用する等これからの 10 年と言わず、この 1 年の課題として周知活動を積極的に行う必要性を感じた。 (事務局) ・先程、本が手元に届くといいなという意見をいただいたが、現在貸出文庫として、本の貸出ができる場所を市内に 7 か所設けている。板山ふれあいセンターにも本を届けており、PR が足りないということも含め、もう少しうまく運用していく方法がないか、もう少し役に立つやり方ができないか考えていきたいと思った。 (事務局) ・会議の中で、公民館に予約本を届けてもらえるようになるとより本を借りられるようになるのではないかという意見があったが、以前、各地域にある公民館、学校、幼稚園、保育園等の公共施設を介して図書館の本を利用者に届ける工夫がないか考える機会があったこともあり、今回そのような意見をいただき大変嬉しかった。実現させるには、図書館の貸出システムとの絡みもあるので、情報収集を進めながら引き続き考えていきたいと改めて思った。 (事務局) ・会議中、移動図書館についての話が上がり、自分も子どもの頃によく利用させていただいたことを思い出した。移動図書館があると、市民にとって本がより身近になり、図書館まで来られなくても本を読んでくれるようになるのではないかと思う。 (事務局) ・今回の資料作成をしていく中で、図書館サービスを充実させ、且つ、幅広い世代に利用していただけるような図書館作りのために、各市町村図書館がいろいろな工夫をされていることがよく分かった。より積極的に情報収集をする必要性を感じた。 (会長)
--	---

	・ 第2回半田市図書館協議会を終了する。 (終了)
--	---